

# 手をつなごう2008

平成20年12月8日  
岡山県立東備養護学校  
支援部だよりNO. 21

## 支援部講座 // リライト教材を勉強しよう①



12月3日に光元聡江先生を講師にお迎えして支援部講座を行いました。光元先生は岡山大学を退官された後、現在も就実大学、岡山大学で客員研究員としてご活躍の先生です。ご自身が考案され、特別支援教育の分野でも注目されているリライト教材について「リライト教材とは」「音読譜とは」「効用」などについて実践例を交えながら具体的にわかりや

すくお話しくださいました。また、実際の教材もたくさんお持ちくださり、手にとって見せていただくこともできました。年度途中で計画し、近隣の小中学校を中心にご案内したのですが、50名もの先生方からお申し込みいただき、関心の高さを感じました。

今後は、教材作成についての演習も交えながら、2月2日・23日の2回実施する予定です。

### アンケートより

- ・日々の国語の授業に悩んでいるところでした。リライト教材を使ってこれまでの実践を改めてみようと思います。(小学校特学)
- ・リライト教材は昨年目にすることがあり興味がありました。「簡略化して音読譜にする」というイメージで自分なりに作成していましたが、本日お聞きしてその有用性、活用することの意義など、深さを感じました。(小学校)
- ・毎日の授業で何をどう扱うか頭を抱えているのが現状です。今日のお話をお聞きして、なぞり書きや漢字の練習だけではなく「学年相当のレベルで」というポイントの重要性に改めて気づかされました。3学期からリライト教材の実践を試みたいと思いました。(中学校特学)
- ・お話の中に思い当たることが多かったです。読みが苦手な生徒は漢字が読めることが必要だと思って漢字を読めるようになることに力を入れすぎていたように思います。文章を書き換えたものを作り、文章を読むことを楽しめるようにしてみたいです。(中学校)
- ・リライト教材の作り方がわかりました。また、特別支援学級での学習の流れが再確認でき、自分がさらに取り入れたらいい点もわかり大変ためになりました。(小学校)
- ・発達障害のある児童や生徒は本当に国語が苦手な子が多いように思います。「取り組む気持ちがなかなかわいてこない」「自信がない」などで字も雑になりがちです。子どもたちが気持ちよく国語の教科書を開けてくれるといいなあと思って参加させていただきました。これからの講座も楽しみです。(中学校)
- ・とても関心のあったリライト教材について学ぶことができ本当によかったです。通常学級の先生方には是非紹介したいと思います。自分でも現在のクラスの子どものために作ってみたいと思います。(特別支援学校)
- ・光元先生の「ひとりで読める名作集」を学級で読んでいます。とても国語が苦手な音読ができない児童がこの本はとても喜んで読んでいます。「読める」「分かる」ということが本人にとっていいのだと思います。(小学校特学)
- ・読むことよりも言語の量よりも内容理解が大切なのだと痛感しています。自分のできる範囲ですが、通常学級でのリライト教材を使った学習に取り組みたいと思いました。(小学校)

